

- ・戦災文化財カード（全8種）
- ・展示室マップ～みどころ紹介～
- ・に挑戦！～

- ・失われた“顔”を求めて... 展示への理解を深めるワーク
- ・失われた“体”を求めて... 円覚寺仁王像の場合

- Contents -

沖繩戦は多くの尊い命を奪っただけでなく、沖繩の町並み、風景、そして貴重な文化財をも消し去りました。戦後80年、先人たちは文化財を取り戻すために行動を起こし、力を尽くしてきました。その「選択と行動の積み重ね」の軌跡を、本展覧会ではご紹介します。これらの文化財はどのようにしてこのよ
うな形で残ったのでしょうか？ ひとつひとつの
ストーリーを追ってみましょう。

観覧ガイド

失われた“顔”を求めて...

— 展示への理解を深めるワークに挑戦！ —

この仏像はどんなお顔だった？ 次の（あ）～（う）の写真から選んでみよう！



- ・展示マップのマークの所も要チェック！
- ・いつ作られたものでしょうか？
- ・円覚寺は仏教のどの宗派のお寺でしょうか？
- ・その宗派ではどんな姿の仏像を作っていたのでしょうか？
- ・作られた当時はどんな見た目の仏像が流行していたのでしょうか？



旧円覚寺木彫資料 釈迦如来坐像 1670年

こたえ：

.....



写真・動画の撮影、SNSへのアップロードについては、資料によって異なります。資料に付された注意書きを見てください。

展示品には
ふれないでください
飲み食は禁止です
展示室内では...

失われた“体”を求めて... 円覚寺仁王像の場合



円覚寺総門、戦前昭和初期

円覚寺（那覇市首里在）は琉球王国の王家第二尚氏の菩提寺で、王家の法要を担ってきた歴史的にも重要なお寺です。ところが沖縄戦で寺は壊滅。入口に建っていた阿吽の仁王像もバラバラに…。人々は戦後荒れ果てた寺の跡地から「仁王像のかげら」を探し拾い上げました。残されたのはたった13個の残欠のみ…。破壊される前の写真も残っておらず、かけらだけでは元の姿を復元することはできませんでした。

戦後70年が経過し、無情にも人々の記憶は薄れていく…。

大切な手がかりが完全に失われてしまう前に、そして琉球王国時代の文化を未来に繋いでいくために、2015年、仁王像の復元事業が始まりました。

＼展示マップのマークのところも要チェック！／



残欠から科学的調査

- ・素材はどんな木材か？
- ・どの時代の木材が使われているか？
- ・仁王像を作った仏師が生きていた時代、どんな仏像が流行していたのか？



まずは粘土で復元

- ・残欠をかたどって、仁王像のどの部分にあたるのかを考察。
- ・類似作品を参考にしながらまずは粘土で体を復元していきます。



いざ木彫で復元

- ・粘土で作り上げた姿をもとに当時の寄木の木取りを考察
- ・当時と同じ木材を使って体を作り上げていきます。

かけら推理

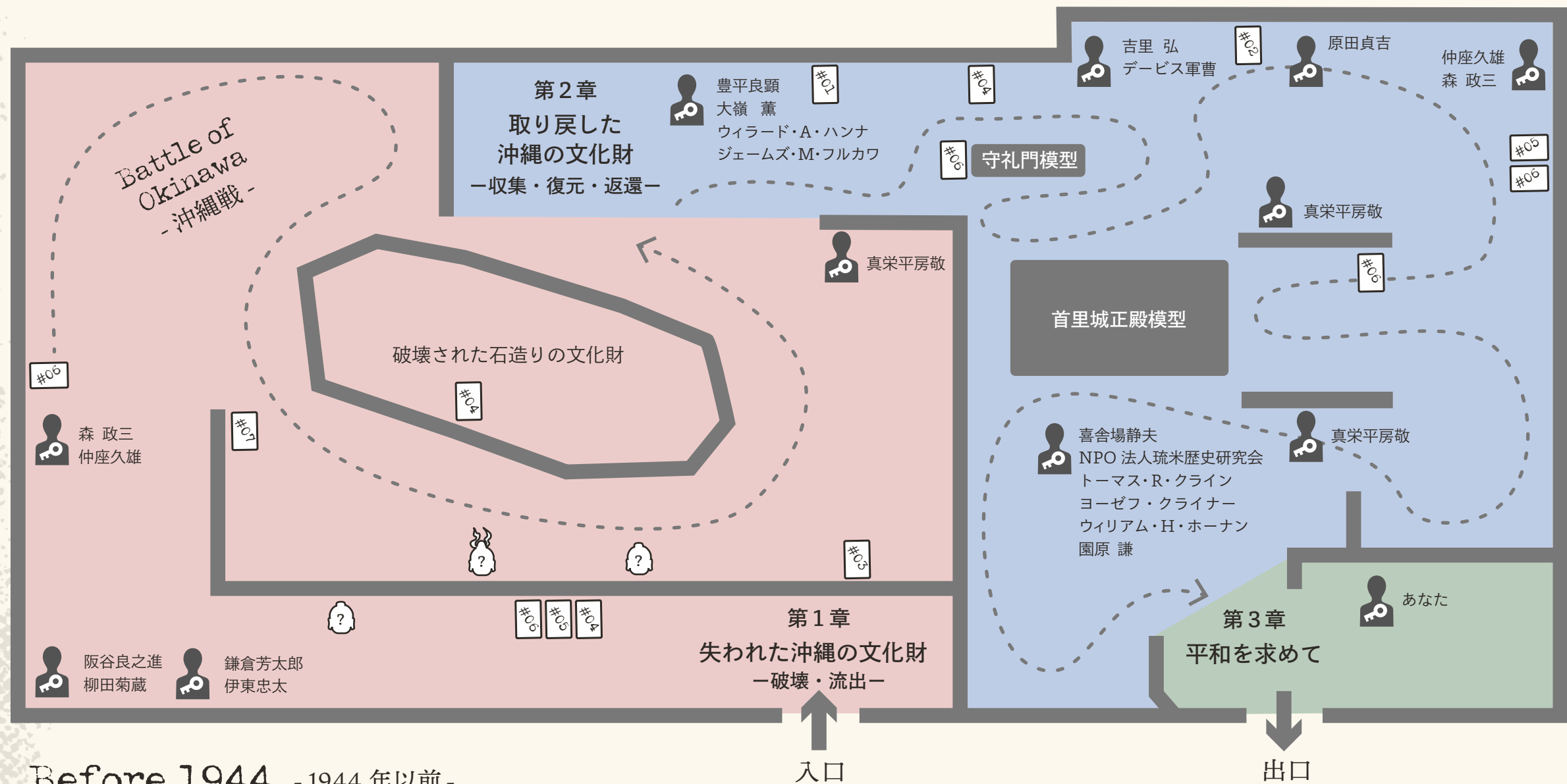
戦後の壊滅跡で、この「かけら」が誰にも拾われなかったら、時の移ろいとともに人々の記憶も失われ仁王像の存在そのものが「なかったこと」になっていたかもしれません。円覚寺の仁王像は、沖縄の人たちが拾った、たった13個のかけらのおかげで2020年、みごとに蘇りました。

さて、展示ケースの中にある、仁王像のかけら（右写真）は仁王像のどこの部分でしょうか？線でおすんでみよう。ぴったりはまるかな？それとも…？



1944-1945

1944 年の 10・10 空襲や 1945 年 3 月から始まった激しい地上戦によって、多くの文化財が失われました。地下に第 32 軍の司令部壕が作られた首里城も消失、沖縄の各地に建っていた石碑や石造物の多くも銃砲弾を浴びてがれきと化しました。また米兵によって島外に持ち去られ散逸・行方不明になった文化財もありました。



After 1945 - 1945 年以後 -

住民が米軍の収容所から解放されたのは 1945 年 10 月以降のこと。荒廃した町を再建し、日常生活を取り戻すために人々は立ち上がります。日々の生活がやっと ... という大変な苦境にありながら、散乱した文化財の「かけら」をひとつひとつ拾い集めた人々がいました。

If... もし...

- ・彼らが文化財のかけらを拾い集めなかったら？
- ・資料のありかを知る人がみな戦死してしまっていたら？
- ・散逸した文化財を搜索する働きかけをしていなかったら？
- ・協力者が現れなかったら？

戦災文化財

失われた沖縄の文化財と取り戻した軌跡

展示室マップ

～みどころ紹介～

- 文化財カード。該当番号の関連展示があります。
- おもなキーパーソン。この方たちの行動がなければ、今わたしたちが目になっている文化財は存在しない、といっても過言ではありません。

The Future of Okinawa - 沖縄の未来 -

「未来へ伝えたい“戦災文化財”」として県民のみなさまから募った写真には、先人がリレーのように繋いできた多くの「文化財」が写っています。今、まさにボタンは私たちの手の中にあります。これから先の未来、この大切な「文化財」を守っていけるかどうかは私たち一人ひとりに委ねられています。

If... もし...

- ・もし、みなさんがこの写真を撮らなかったら？
- ・今後、文化財が消えてしまうような出来事があったら？

Before 1944 - 1944 年以前 -

1879 年、琉球国王が首里城を退去させられて以降の沖縄は、王国時代の建造物の老朽化や倒壊、美術工芸品の散逸の危機にさらされていました。そのような状況で、鎌倉芳太郎、阪谷良之進、柳田菊蔵、森 政三らが残した写真資料は当時の沖縄の様子を伝える大変貴重な資料となっています。

If... もし...

- ・もし、彼らが写真を撮っていなかったら？
- ・撮った写真資料を沖縄で保管していたら？

さいごに ..

おそらく、沖縄戦が原因でこの世から消えてしまった文化財や文化もあることでしょう。あなたの大切なもの、場所、文化、風習も「たった一つの出来事や行動」で失うことも、継承されることもあります。

あなたの大切なものは何ですか？そして、それを未来に繋いでいくために、どんな行動が必要だと思いますか？